

# 障害者取り残さない 18歳の模索



弟の奏さんと一緒に夕飯作りをする秋山響さん（左）  
＝愛媛県新居浜市



「投票する予定」55%

日本財団は8月に国政選挙をテーマに「18歳意識調査」をネットで実施した。17歳から19歳の男女916人が回答。投票予定を尋ねたところ、「投票する」は28.8%で、「たぶん」を合わせると55.2%だった。最も重要視された社会問題は、新型コロナウイルスなどの感染症、ワクチンなど保健衛生。次いで経済成長と雇用（失業率、ブラック企業など）、子育て・少子化（出生率、育休・産休など）などだった。担当者は「身近な問題ほど注目度が高い。今回の衆院選は、新型コロナによって政治への関心が高まっており、投票率が注目される」と話す。

中学生の頃からの夢だった文化や観光を生かしながらちづくりに携わりたい。そう思って憧れの大学を受験したのに、「志望理由書に書いた『大好きなまち』の中、弟のような障害者はいませんでした……」。愛媛県新居浜市の秋山響さん（18）は失敗した受験を振り返りつつ、こう話す。「だれもが一緒に生きられる社会を望んでいながら、障害のある人を置き去りにして、その人の可能性を見ようとしていなかった自分は最低でした」

響さんは受験後、重い知的障害と自閉症がある小学5年の弟の奏さん（10）との時間を大切にしながら、障害のある人と出会うために全国を回る目標を立て、今年3月、まずは地元の障害者が通う作業所でアルバイトとして働き始めた。

中学生の頃からの夢だった文化や観光を生かしながらちづくりに携わりたい。そう思って憧れの大学を受験したのに、「志望理由書に書いた『大好きなまち』の中、弟のような障害者はいませんでした……」。愛媛県新居浜市の秋山響さん（18）は失敗した受験を振り返りつつ、こう話す。「だれもが一緒に生きられる社会を望んでいながら、障害のある人を置き去りにして、その人の可能性を見ようとしていなかった自分は最低でした……」。愛媛県新居浜市の秋山響さん（18）は失敗した受験を振り返りつつ、こう話す。「だれもが一緒に生きられる社会を望んでいながら、障害のある人を置き去りにして、その人の可能性を見ようとしていなかった自分は最低でした……」。

**その先に  
見えたもの**  
2021衆院選

2

中学生の頃からの夢だった文化や観光を生かしながらちづくりに携わりたい。そう思って憧れの大学を受験したのに、「志望理由書に書いた『大好きなまち』の中、弟のような障害者はいませんでした……」。

愛媛県新居浜市の秋山響さん（18）は失敗した受験を振り返りつつ、こう話す。

## 受験失敗 弟から気づき 全国回り「交点」探し

中学生の頃からの夢だった文化や観光を生かしながらちづくりに携わりたい。そう思って憧れの大学を受験したのに、「志望理由書に書いた『大好きなまち』の中、弟のような障害者はいませんでした……」。

高校時代は市の依頼で転入者に別子銅山をガイドし、長期総合計画を策定する会議の委員に選ばれた。

しかし、第1志望の大学に落ち、「自信も夢も崩れ落ちた」中で、自分自身を見つめ直したという。

知的障害者のアート作品などを紹介する企業のホームページにあった「知的障害……普通じゃない」という言葉に、はつらした。

「第一志望の大学の再受験も考えなくもありません。でも今は、いろんな世代や経験を持つ人たちと触れあって自分を変え、障害のある人との『交点』を見つけたい」と話す。

中学1年の時、環境問題をテーマにした新聞作りのため、新居浜市の職員にゴミ対策の話を聞きに行つ

9月に島根県で住民ともりくらを実践する看護師たちと一緒に活動を学ぶため、作業所を8月で辞め、島根に滞在した。菜園の看板作りなどに汗を流し、「互いに尊重し仲間として関わる姿が、障害のある人と向き合う未来像に重なった」。

今は静岡や東京にある障害者を支援する事業所を訪ねようと準備中だ。一人暮らしや共同生活など、いろんな暮らしのし方をしている障害者に出会いたいと思う。

活動も高校時代から継続。調査を行う新居浜市の委員会の委員を務めている。

「生きているだけで幸せを一票に込めたい」。障害者政策は後回しになっていたり、水遊びしたり。「会話を

して投票する。「未来をつくるのは自分たち。その思いを一票に込めたい」。障害者政策は後回しになっていたり、水遊びしたり。「会話を

して投票する。「未来をつくるのは自分たちだとも思う。すると感じる。国の政策が大事な一方で、社会をつくるのは自分たちだとも思う。つくれるのか、悪戦苦闘中の18歳です」（森本泰紀）

は難しくても、一枚の葉つりでわくわくした。まちつぱをじつと見つめる感性めなどをした。障害のある人より時間がかかった。それでも笑顔で受け入れてくれた。コミュニケーションに声感つていると声をかけてくれた。「支援しなきやう時間は心地いい」

地元の作業所では、知的障害や精神障害のある人たど一緒に、ふせんの袋詰めなどをした。障害のある人より時間がかかった。や、素直に気持ちを表現する自由心を持つ弟と向き合った。「初めて知ることばかりでわくわくした。まちつぱをじつと見つめる感性めなどをした。障害のある人より時間がかかった。それでも笑顔で受け入れてくれた。コミュニケーションに声感つていると声をかけてくれた。「支援しなきやう時間は心地いい」